

■ 三重県視察報告書 概要版 (平成 26 年 2 月 18 日～2 月 19 日)

- 「大学を拠点とした産学官連携・まちづくり」の先進的事例として、大学をどう活用できるのか、今後の参考にすべく、三重大学及び三重大学と関わりのある企業を視察先に選定し、調査を行ったもの。
- 三重大学は、地域との産学官連携を積極的に進めており、地域での共同研究数も国内大学の中でトップクラスとなっている。さらに、平成 21 年 4 月には、地域産業界との連携し、三重大学の全学部(5 学部)の教員参画のもと、研究と教育に特化した大学院として「地域イノベーション学研究科」を設置するなど、地域に立脚した大学であることが特徴。同研究科では、研究成果を社会に還元できるよう、研究能力養成担当の教員 (R&D 教員) と、社会ニーズに基づいた企画・製品化の能力を養成する教員 (プロジェクト・マネジメント教員) の 2 名体制で 1 人の学生を指導する、「サンドウィッチ方式教育」を導入している。
- こうした特色のある人材教育と、地域に開かれた研究環境により、地域の企業の中には、大学内に企業の研究室を設けるなど、積極的に商品開発や人材育成に取り組む事例がある。
- また、現在、同研究科には 10 名程度の企業経営者が大学院生として入学し、地域内での産学連携による取り組みを大学内に持ち込み実践するほか、他分野の教員や異業種の経営者との交流を通じて、新たなビジネスにつながる可能性を広げている。

◇ 視察参加者 (8 名)

組織名・役職名	団体名	職名等	氏名	
十勝高等教育まちづくり会議	事業部会長	とちかち財団	事業部長	大庭 潔
	事業部会員	有 識 者	帯広市農業委員、	笹谷 明広
	企画総務部会	有 識 者		後藤 健市
	事 務 局	帯広市 政策推進部 政策室	事務局副主幹	高橋 秀和
	関係部局	帯広市 商工観光部 工業労政課	係 長	竹川 暢
	関係部局	帯広市 産業連携室	主 査	山本 哲矢
帯広畜産大学整備拡充促進期成会	事 務 局	帯広市 政策推進部 政策室	事務局主任補	村上 圭
	関係部局	十勝町村会 事務局	主 査	大石 秀人

◇ 視察先・参加者感想

① 辻製油株式会社

概要	産学官連携の対象	主な連携	特記事項
<p>◆会社の新たな研究所として、三重大学内に「辻 H&amp;B サイエンス研究室」を設置（商品開発、大学の知見の吸収・活用、人材確保、人材育成、企業と学生のマッチング など）</p> <p>◆柑橘類の栽培や廃材の活用を通じた地域産業の活性化、雇用の創出（商品開発、バイオマスプラントの運営など）</p>	<p>◆三重大学、三重大学生、地元企業・事業者（農業従事者が中心）</p>	<p>◆三重大学の学生との共同研究</p> <p>◆大学シーズを活用した商品開発 など</p>	<p>・学生との共同研究を通じて採用実績あり</p> <p>・平成24年度知財功労賞受賞</p> <p>・国内トップクラスのなたね油・コーン油の製造量、世界有数の高純度レシチンメーカー</p> <p>・辻 H&amp;B サイエンス研究室では10名ほどの社員が研究開発に取り組んでいる</p>

② 有限会社二軒茶屋餅角屋本店

概要	産学官連携の対象	主な連携	特記事項
<p>◆代表取締役が自ら三重大学大学院地域イノベーション学研究科に所属し、商品開発につながる研究や、多分野の教員や企業との交流を行っている</p> <p>◆クラフトビールの製造を安定的に行うため、酵母の最適な配合方法を研究している</p>	<p>◆三重大学大学院地域イノベーション学研究科</p>	<p>◆最先端の機器を活用した発酵・酵母の研究</p> <p>◆教員・企業との交流</p>	<p>・1997年からクラフトビールの製造に着手し、2000年に国内大会で金賞、2003年に国際大会で金賞を受賞</p> <p>・平成26年度から、自社の社員1名を、地域イノベーション学研究科に入学させる予定</p>

③ 国立大学法人三重大学 地域戦略センター

主な機能	産学官連携の対象	主な取り組み	特記事項
<p>◆自治体・民間企業の課題に対し、大学の知的財産を活用しながら、解決に向けた提案を行う、地域のシンクタンク役割（中心市街地の活性化、経営者の育成、農林水産業の振興など）</p> <p>◆学生参加による地域課題解決（平成26年度よりキャリア教育の一環として、共通科目において実施予定）</p>	<p>◆自治体・民間企業</p>	<p>◆政策提言</p> <p>◆地域の人材育成</p> <p>◆事業化支援</p> <p>◆大学の持つ知的財産の社会還元</p>	<p>・地域との共同研究数は全大学でトップ10に入る実績</p> <p>・平成25年12月に学内の全ての社会連携組織が一箇所に集結</p> <p>・県庁や産業界の人間と勉強会を不定期で開催し、県の抱える問題について意見交換等を実施</p>

④ 国立大学法人三重大学大学院地域イノベーション学研究科

- ・・・地方産業界において、新たな事業の開拓を牽引する中核人材の育成  
三重大学の全ての学部の教員で構成され、基礎研究能力およびプロジェクトマネジメント能力の育成を行う

三重県視察（三重県内企業・三重大学）を通しての感想～大学を拠点としたまちづくりへのヒント～



- 今回訪問した企業は、大学を上手く使おうという気持ちのもと、自分の会社の事業を伸ばしているという気概を感じた。
- 実際に、企業は大学・行政のフォローのもと、大学を上手く活用できていたし、成果を地域へフィードバックするなど、全体的に活力があったなという印象。
- そこに、リーダーとして活躍される方が、ちゃんとしているのも羨ましいと思った。



- やはり人が軸であるという印象。その中で、世界を目指すという姿勢により、裾野が広がり、色々なシーズが具体的なものとなっている。
- 大学が地域の中で生き残るため、学長主導で全力で産学官連携に取り組み、一人の人間に権限を与えている。
- 十勝にもやる気のある企業は沢山ある。我々もシンクタンクのような取り組みを進め、企業と大学をつなぐことが大切である。